

# 答辞

日差しが日々やわらかくなり桜の蕾も色付き始め、命の躍動する春の訪れを感じる季節となりました。かくも佳き日に私達五年生一同は無事卒業を迎えることができました。

本日は新型コロナウイルスの感染が拡大しているさなか、私達卒業生のために卒業式を挙げてくださり誠にありがとうございます。

先ほどは校長先生からの式辞に加え、在校生の方からは心のこもった送辞を賜り、卒業生一同、深い感銘を受けています。

今、この場に立ち、福井工業高等専門学校での五年間を振り返ってみますと、本当にあつという間だったと感じます。その一方で、この福井高専に入学したあの時から、私たちは多くの人と出会い、たくさん人のことを学び、挫折や苦難を乗り越えて、少しずつ成長していったように感じま

す。

入学当初は、慣れない環境で右も左も分からず、戸惑いや不安でいっぱいでした。そんな中、新しい友人に恵まれ、共に切磋琢磨しながら、充実した日々を過ごすことができました。また、初めに教えられたA(挨拶)、B(美化)、C(コンプライアンス)の精神を忘れず、高専生としての振る舞いを心がけていました。

二年次にはクラスが変わり、学科ごとのクラスになりました。卒業までずっと同じクラスということで不安もありましたが、ここでもまた新たな友人を得ることが出来ました。高専、という環境にはなかなか個性的な人たちが多く、彼らの存在で高専生活がより彩られたと感じます。また、この頃には専門科目や実験も増え、高専ならではの学習が始まりました。

そして、三年次における研修旅行では、いくつかの企業を見学し、自分達が学んでいることが実際の仕事でどのよう役立っているのかを実感することが出来ました。

四年次には専門科目や実験が一気に増えて、毎日勉強やしポートに追われることとなりました。また、夏休みのインターンシップでは、実際に仕事や社会の常識を学ぶいい経験になりました。そして、自分の将来について真剣に向き合ってきました。その間にもなりました。今まで漠然としていた自分の将来という姿に、何度も悩み迷っていました。そんな中、少しずつ自分が将来どうなりたいのかを、頼れる先輩や先生方からの助言や励ましを受けて模索していきました。

最後の五年次では、就職・進学のために、各々が自分のできる最大限の努力を重ねてきました。また、今まで学んできた知識や技術を活かし、初めて自分一人の責任のもと、日々卒業研究に打ち込む中、仲間と過ごす最後の年の一日一日を、大切に、噛み締めながら過ごしていきました。

私達は五年間の学生生活の中で、部活動、体育祭、高専祭といったような大きな思い出から、日々の些細な出来事まで、様々な思い出を積み重ねてきました。それは、良い思い出だけでなく、

今思い出しても赤面してしまうような、苦い思い出だ。沢山ありました。けれどそれは、間違はなく自分の糧となり、今の自分を形作るのになくしてはならない経験となりました。そして、素晴らしい仲間達とこの学校で出会えたこと、その仲間達と共に学生生活を送れたことに心から感謝しています。

私達がこれから歩もうとしている道のりは決して平坦なものではなく、数々の試練が待ち受けていることでしょう。社会の理不尽さに、自分の実力不足に、時には立ち止まり、下を向き、控えて、泣きそうになる日が来るかもしれませんが、しかし、誰がなんと言おうと、誰にどう見られようと、私達が、私達自身を否定することには絶対にありません。その困難に立ち向かう術を、また一歩踏み出すだけの勇気を、そしてそんな自分の背中を押ししてくれる仲間を、私達はこの五年間で手に入れたからです。これからも、今まで磨いてきた、自分自身が持つあらゆる武器を、さらに鋭く、硬く磨き上げ、誇れる自分であるよ

うに、日々邁進していく所存です。

最後に、ご指導くださった教職員の皆様、今まで私達を心優しく見守ってくくださった方々に、改めて深く御礼を申し上げると共に、今日という日まで誰よりも支え、寄り添ってくれた家族に、心から感謝いたします。

また、私達の手を取り、導いてくださった先輩方、多くの場面で、力を貸してくれた後輩の皆さんにも心からの感謝を伝えたいと思います。そして、これからの皆様の益々の御活躍と、福井高専の一層の発展を祈念して、答辞と致します。本日は本当にありがとうございました。

令和二年三月十九日  
卒業生代表

物質工学科

水島 美咲